

# 船隊規模20隻、海外向けも拡大

## ■千葉商船、創立30周年

千葉商船(本社=千葉県・佐原、営業拠点=東京、木内弘幸社長=ワールドマリン社長兼務)は23日、創立30周年を迎えた。船舶管理会社ワールドマリンを母体に1972年に設立された同社は用船者の要望に応える形で船隊を拡大し、現在では発注残を含め20隻の船隊規模になる。国内では数少ないV L C Cを保有する専門船主でもある。国内オペレーター向けを主体としつつも、近年では海外オペレーターへの貸船を拡大している。

創立30周年を機に同日付でホームページを開設した(URL=http://www.chibaship.co.jp)。

千葉商船は船舶管理・船員配乗会社ワールドマリンを母体として発足した専門船主。当時、ワールドマリンは近海の木材船を保有・運航していたが、1979年に船舶管理業と船主業を分離して、船主業の千葉商船を設立した。ワールドマリンは船員配乗業を主体に、千葉商船は船主業と船舶管理業を営んでいたが、ワールドマリンの顧客である船主のニーズに対応するため、2002年には千葉商船の船舶管理部

門をワールドマリンに統合した。これにより、ワールドマリン・グループの船主部門が千葉商船、船舶管理・船員配乗部門がワールドマリンという現在の形となった。

船主業の展開について木内社長は「経営方針の1つでもある『大きく変化する経済変動に影響されない経営』を継続的に実行し、キャッシュフロー経営前提に展開してきた」と語る。「為替リスクを伴わないもの」「長期契約主体」「国内オペレーター向け主体」を船主業のポリシーとして、経営してきた。

千葉商船は旧昭和海運系の船主

としてチップ船を皮切りに、鉦石専用船、鉦油兼用船、V L C Cなどを保有し、船隊規模を増やしてきた。現在は既存船14隻、発注残6隻の合計20隻の船隊を有する。貸船先は極洋海運、日産専用船、丸紅、伊藤忠商事、出光タンカー、エバーグリーン、P C L(パシフィック・キャリアーズ)。出光タンカー向けV L C C、マーケットで運用しているハンディマックス・バルカーの2隻を除いてすべて裸用船に出している。

以前は、海外オペレーターは財務情報などが限られており金融機関が与信判断をしにくいことから、「金融機関が判断できない、会社としての判断材料も不十分な設備投資を行うことは無責任」(木内社長)と考え、基本的には国内オペレーターへの貸船を主体としてきた。近年では、「日本の金融機関が海外オペレーターの与信をとれるようになってきた。金融機関と話をしつつ、海外オペレーター向けの案件も始めている」(同)。

直接、海外オペレーターに貸船しているのは、発注残を含めて6隻になる。このうち、エバーグリーン向けは、同社の中古船を買い取り、裸用船に出す仕組み変えて、4229 T E U型コンテナ船1隻を貸船している。また、P C Lとは商社を通じた関係から始まり、今年から直接、P C Lへの貸船を開始した。

また、千葉商船はV L C Cを保有する国内で数少ない専門船主。用船者の意向からシングルハル船の売船を進め、現在ではダブルハルのV L C Cを1隻保有している。V L C Cの保有実績は延べ10隻になる。

千葉商船のフリートリスト

	船種	重量トン等	造船所	竣工年
1	冷凍・冷蔵船	8803	岩城造船	1993
2	ハンディマックス	4万3596	常石造船	1994
3	コンテナ船	4229TEU	三菱重工業	1995
4	PCC	3199台	金指造船	2000
5	コンテナ船	1032TEU	岩城造船	2002
6	ハンディマックス	5万2200	豊橋造船	2003
7	V L C C	30万544	アイ・エイチ・アイ・マリン ユナイテッド	2004
8	レイカー	3万2200	新来島どつく	2005
9	カムサマックス	8万2783	常石造船	2006
10	ハンディマックス	5万5500	三井造船	2007
11	プロダクト船	4万7000	尾道造船	2007
12	パナマックス	7万6500	新笠戸ドック	2008
13	パナマックス	7万8000	サノヤス・ヒシノ明昌	2009
14	ハンディサイズ	2万8050	あいえず造船	2009
15	プロダクト船	4万5800	新来島どつく	2010予定
16	パナマックス	8万3000	サノヤス・ヒシノ明昌	2011予定
17	ハンディサイズ	2万8000	あいえず造船	2012予定
18	オーバーパナマックス	12万0000	サノヤス・ヒシノ明昌	2012予定
19	ハンディマックス	5万8000	川崎造船	2012予定
20	ハンディサイズ	3万7300	今治造船	2012予定